

## 三瓶山 三瓶山解説標識

三瓶山の6つの峰は、過去10万年にわたって繰り返された火山噴火によって形成された5キロの巨大なカルデラに含まれている。最後の噴火は約4,000年前に発生した。温泉と噴気から現在も活火山であることがわかる。

三瓶山の4つの最高峰の名前は、男三瓶、女三瓶、子三瓶、孫三瓶という親しみやすい呼び名がある。男三瓶が一番高い1,126メートルで、二番目に高い子三瓶は961メートルだ。緑豊かな低地、風の吹きつける高原、生い茂るブナ原生林、保護された湿地で構成される三瓶山では、様々な感動的な景色を見ることができる。特筆すべきは朝方に近隣の太平山から見える雲海で、頂上から眼下に低い雲の層を眺めることができる。もうひとつの素晴らしい場所は室内池で、秋には太平山と孫三瓶の登山道が紅葉で明るく彩られる。池の近くには鳥地獄というガスの噴き出る場所があり、ここではかつて鳥や小動物には有害な高濃度の二酸化炭素が噴出されていることが知られていますが、人にはほぼ無害です。